



学院報インタビュー⑤7

## 木藤 奈保子 さん Mùténg Nàibǎozǐ ②

『ショコラ』で長澤まさみさんをキャスト

コミックプロダクションの最初の仕事が『ショコラ』<sup>(2)</sup>というドラマのヒロイン探しでした。『ショコラ』は社長が5、6年前から準備していたのですが、ずっとヒロインが決まりませんでした。丁度その時、台湾で韓国アイドルグループ・スーパージュニアでドラマを撮って成功していたので、社長は、次は日本の女優さんでやりたい、それも長澤さんでやりたいという思いが強く、オファーするよう言われました。私は日本のプロダクションの方と全く関りがなかったのですが、前職を退職した時、人脈作りをしようとして海外に興味のある業界の方たちとあって、プロデューサーを紹介して貰ったりしていました。またコミックプロダクションも実績があったので、その中のある方がこのドラマに興味を持ってきて、長澤さんの事務所のマネージャーさんを紹介してくれました。でも最初話をした時は全然相手にされませんでした(笑)。

私も緊張していて台湾ドラマに出演するメリットもよくお伝え出来なかったんですが、間に入ってくれる人が熱心で、台湾ドラマは台湾だけじゃなくアジア10何か国に回るとメリットを説明するなど色々後押ししてくれて、またコミックプロダクションが日本の出版社とも信頼関係を築いている会社だったので、遂にマネージャーさんが台湾に行って社長に会ってくれることになりました。その時点で見込みが高かったのですが、社長も作品や女優さんに対しての熱意を伝えられたので、出演を決めて頂きました。最初にアプローチしてか

ら半年ぐらいかかりました。長澤さんは日台ハーフの役で、中国語が必要だったので、すぐに中国語レッスンを始めてくれて、その半年後ぐらいいから撮影が始まりました。

### 長澤さんの努力に脱帽

長澤さんはお忙しい中早い段階から一生懸命レッスンして下さい、俳優さんは皆これほど前から準備してるんだと驚いた覚えがあります。台湾でのドラマ撮影中は、中国語のレッスンは優秀な台湾人の先生について頂いて、その他の台湾の制作会社としての仕事の長澤さんに関わることは全部やりました。宿泊先手配、スケジュール管理、台本の修正、現場での調整等、朝ホテルへの迎えから、夜送るまでつきっきりの毎日、台北以外に宜蘭や台東にも撮影に行きました。長澤さんは4か月間半、毎夜ホテルに戻ってから明日のシーンの中国語の台詞を暗記する毎日で本当に凄い努力をされました。後からドラマを見返してみると、中国語ができないのに他の人の台詞の時にちゃんと反応してるんですね。今思うと不思議でしょうがないです。他の人のセリフだから聞いたことないのに何でこの単語の時にえっ？と反応できるのか。台詞が変わることや撮影シーンが変わることもあったんですが、それにも対応してくれました。長澤さんの頑張りには頭が下がります。長澤さんとは今でもスタッフを含め交流があります。

それ以降ドラマは4本制作しました。『GTO』に出演したEXILEのAKIRAさんも素晴らしい方でした。長く一線で活躍されている



2ヶ月遅れで本科新生が登校しました

### A 先生の新語コーナー



## tiānwèn yīhào “天问一号”

天问1号。国家航天局は「中国宇宙の日」の4月24日、今後の惑星探査計画を「天问(Tiānwèn)シリーズ」とし、その第1弾となる火星探査ミッションを「天问1号」と命名すると発表した。この名称は戦国時代の楚の詩人、屈原の長詩「天問」に由来し、真理探究の思いを託している。地球と火星は約26カ月毎に最接近し、今年は絶好の機会となる。早ければ7月にも火星探査機を打ち上げ、中国共産党創立100周年に当たる2021年着陸を目指している。

(A)

方はほんと凄いなと思います。ずっとオファーされるには理由があるなと思います。

### フィガロのマネジメントも始める

2018年頃から台湾ドラマは中国で人気の出るドラマを作らないとビジネス的に成り立たないという風潮が強くなってきました。中国で成功するドラマを作るには、日本の俳優の出演や日本原作のドラマだと政治情勢に影響を受けるリスクがあるので敬遠されるようになりました。日本が絡まないと私が参加できる案件も少なくなるわけです。私はフリーランスなので仕事がないと収入もないので、どうしようかと思っていた時に、10年来の友人だった俳優フィガロ<sup>(3)</sup>から、日本の市場でチャレンジしてみたいのでマネジメントをしてほしいかと声を掛けて貰いました。最初は、台湾の人と撮りたいと相談を受けた時にフィガロを推薦すればできるかもと軽い気持ちで引き受けたんです。でも、そんな話は滅多にないので、日本の業界の人に一生



③台湾のオフィスでの会議中、オフィスには猫や犬が何匹もいます

懸命営業回りをしています。それと反対に台湾や中国に出たいという日本の俳優さんからも相談があり、そういった方々の台湾や中国への営業もしています。

### 『東京ラブストーリー』に出演

フィガロは台湾、中国、日本で時間を割いて仕事をしているんですが、日本の作品の中に外国人の役自体少ないので、役をとるのは難しいですね。フィガロとは10年後にどこのエリアからも良い作品のオファーが来る俳優になれるようにと話しています。このまま台湾だけで仕事をしていたら、台湾でしか仕事ができなくなってしまう、今他のエリアで挑戦を始めたら10年後には色々な作品からオファーが来るのではと、それを目標にやっています。色々な業界の先輩からアドバイスを頂くのですが、外国人のフィガロの場合、役が既にあって声を掛けてもらうのではなくなかなか良い役は来ない、最初の作品作りのところから参加して、フィガロにこの役をやらせたいからこういう話にしようというふうに入っていないと良い役は貰えないと。だからどうやったら制作の段階から入れるか勉強しています。

今度、フィガロはアルヴィン・ヤンという役で『東京ラブストーリー』(2020版)<sup>(4)</sup>に出演します。それで先日日本のメディアに取材して貰いその通訳をしたんです。その際、フィガロが“王子的恋愛…”って言ったと思ったので、“王子”って何だ?と思いながらもそのまま“王子様みたいな恋愛に憧れて”



④フィガロ旅行番組口役で青森を訪れる

って訳してしまっただんですが、よく考えたら東京ラブストーリーの主役の“完治 (Wanzhi)”のことだったんです(笑)、後から慌てて訂正しましたけど(笑)。そんな聴き間違いもまだしています。東京ラブストーリーはFOD、Amazon Prime Videoで配信しているので是非見て下さい。

### 最新映画「燕」

もう一つ宣伝になるのですが、『燕Yan』という映画が6月に上映されました。私が制作に参加し昨年高雄で撮影しました。日本アカデミー賞作品賞を撮った『新聞記者』のカメラマンだった今村圭佑さんの最初の監督作品です。離れて暮らす兄弟が23年ぶりに再会し、夏に日本に来て、冬に暖かい地方に移動する燕のように、故郷が二つあってもいいのではないかと、自分は何人なのだろうかと思う映画です。

### 今後は英語も勉強したい

今は台湾ドラマ制作、フィガロのマネジメント、日本の俳優のアジアの営業と1/3ずつ位やっています。仕事のチャンスはたくさんあると思うんですが、なかなか生かしきれていないですね。勉強中です。ドラマは成立するまでに何年もかかるので、

その間に違うスパンでできることをやっていきたいと思っています。また時々映像業界の通訳もやっています。台湾の女優さんたちが来日した時のイベントの通訳などを単発で受けています。もうこの業界で15年働いているので、最近やっと緊張しないでちゃんと聴けるようになったんです。だから映像業界の通訳は自分の中では得意で、楽しくやっています。

私は現場の制作の仕事が好きなので、それを深めるためにも、俳優たちの営業もしっかりやって色々な形で参加できるようにしていきたいと思います。中国語を勉強して凄く世界が広がったので、今は趣味も含めて英語を勉強しています。私の性格は、

ゆっくりやっても身に付かないので、中国語の時のように集中的にやらないとダメだなと思っています。日中学院で発音、文法などしっかり基礎を学んで中国語を使えるようになったので、同じやり方で英語も勉強していきたいです。仕事で英語も使えるようになりたいというのが次の10年の目標です。(完)

『ショコラ』<sup>(2)</sup> 日本の漫画、その原作を元にした台湾ドラマ。台湾版原題は『流氓蛋糕店』。台湾版で長澤さんは日本で生まれ育った華僑の千恵を演じる。千恵が亡母の駆け落ち相手で、ケーキ屋を営むヤクザの元組長の元に転がり込み、血縁関係のない2人の絆や元組長の子分らとの友情、恋愛模様を描く。

フィガロ<sup>(3)</sup> フィガロ・ツェン(曾少宗)。台湾のアイドルグループ・可米小子(コミックボーイズ)の元メンバーで現在台湾、中国、日本で俳優や歌手として活躍中。2018年から日本で本格的に活動を始める。

『東京ラブストーリー』<sup>(4)</sup> 柴門ふみの漫画が1991年にドラマ化、今春29年ぶりの再ドラマ化となる本作では“2020年の東京”を舞台にした恋物語が展開。

木藤奈保子(きどう なほこ)さん  
プロフィール

本科39期・本科研究科31期卒業  
2005年～2011年 コミックリズにて台湾ドラマの買い付け業務を担当  
2011年～台湾コミックプロダクションの日本担当として、ドラマや映画制作に携わる  
2018年～フィガロの日本マネジメントや日本の俳優のために台湾・中国への営業も担当している  
最新映画『燕Yan』ではアソシエイトプロデューサーとして参加

## 図書室 だより

### 『日本から渡った漢語』

今月は、新着図書\*『漢語の謎—日本語と中国語のあいだ』荒川清秀/筑摩書房 \*『日本語と中国語の妖しい関係 中国語を変えた日本の英知』松浦喬二/日本橋報社 の二冊より興味深い話のネタをお届けします。

中国語は学習の過程で、日本語と比べて文法は易しいが発音が難しく、声調は重要などと指摘されますが、日中同形語(意味も同じ)が多いため視覚的には何となく理解出来てしまうという利点があります。これが却ってマイナスという見方もありますが、やはり漢字が分かり、その意味も理解できることは学習にとって圧倒的な強みと言えるでしょう。

では何故こんなに多くの日中同形語があるのでしょうか。日本は、明治までは中国から一方的に言葉を受け入れてきました。しかし明治維新後、西

欧からありとあらゆる分野の近代的(西洋的)技術や思想などを取り入れざるを得ない状況になりそれまで使っていた「漢語」(漢字の熟語)だけでは翻訳は不可能でした。なにしろ概念そのものがこれまでなかった言葉もあったわけですから。そこでそれまでの漢語や漢籍から新しい言葉を造語しました。例えば「エコノミー」の翻訳として「経国済民」中の2文字を取り上げ「経済」という言葉が作られたことは周知のとおりです。

これらの新語は当時の中国人留学生、亡命知識人などが積極的に中国に持ち帰り、その多くが現在に至るまで両国で使われています。

例を少し上げるなら、特権、哲学、環境、芸術、互惠、独占、肯定、解放、共同、希望、活動、社会主義、自然科学、治外法権など政治、社会、学術といったあらゆる分野に渡ります。

髻に和服を着て海を渡り、新しい文化に接し抽象的概念を含む様々な言葉を翻訳していった当時の日本人の情熱に敬服すると共に、漢字が日本に定着していたからこそ、この作業が出来たのだと感慨深いものがあります。



# 8月の日中学院

星期日	星期一	星期二	星期三	星期四	星期五	星期六
						1
2	3 ●本科、日本語科 補習(～7,8日) ●別科夏期集中講 座(3,5,7日)	4	5	6	7	8
9 ●閉門 ●本科、日本語科 夏休み	10 ●祝日	11	12	13	14	15
16	17 ●開門 ●別科、日本語科 授業再開	18	19	20	21	22
23/30	24/31 ●日本語科避難訓練	25	26	27	28	29 ●本科公開講座①
●9月の日中学院 ・1日…本科 授業再開 倉石奨学金募集、避難訓練 ・5日…倉石奨学金締切		・9日…本科倉石奨学金発表 ・12日…別科公開⑥(入門・基礎) ・14日…本科追試 ・15日…中検受付開始			・18日…別科公開⑦(入門) ・26日…別科公開⑧(入門) ・29日…日中国交回復48周年 …別科 278期最終日	



## 学院報の季刊誌化についてのお知らせ

毎月学院報をご愛読いただき、誠にありがとうございます。学院報は現在、毎月1日発行で4ページB5判の小冊子として刊行しております。

学院は年初に広告委員会を開き、広報活動について見直しを行い、「限られた予算をより有効に使うためにも、学院報は3か月ごとの季刊誌にし、内容を充実させ、読ませるものにする」という方針を決定し、運営委員会です承されました。

つきましては、勝手ながら10月号からは季刊誌として発行する予定であることをお知らせします。

今後とも学院報に対するご支援ご協力をお願い致します。



## 中国語夏期集中講座

2020年8月3日、5日、7日(3日間) 予定

- ・お試し中国語(入門講座)
- ・「ピンイン一覧表」から発音の見直し
- ・最新のニュースを聴いてみよう!
- ・フリートークを楽しもう!
- ・なっとくの中国語
- ・「香港から見る中国の近現代史」

夏期集中講座が開講予定です。Zoomを使ったオンライン授業も行います。詳しくはホームページをご覧ください。  
<https://www.rizhong.org/part-time/concentrated>

## 学院長の思い出話21

### 経済発展土産に鄧小平死去

私の2度目の駐在は日中経済関係が全面的に発展した時期でした。日本企業の対中投資が拡大し、かつ日本側100%出資企業が主流になり、投資が貿易を牽引する段階に入っていました。市場経済が定着し、貿易・投資のパートナーも次第に民間企業や外資系企業が主役になりつつありました。国有企業は大企業を強化し、中小企業は民間化するという「抓大放小」の方針の下に企業改革が進められました。

1997年2月19日、改革開放の総設計師鄧小平氏が死去しました。毛沢東主席の死去の直後に北京にいた経験のある私にとって、市民の表情の明るさに驚きました。改革開放路線が確定していることと、実際に経済が年毎に発展していることが市民に安心感を与えていたからだと思います。

知り合いの若い女性が「職場で追悼式が行われるが、涙が出そうもない。他の同僚が泣き出したら目薬を指して泣いた振りをしよう」と思い、目薬を持って参加した。しかし、実際には誰も泣かなかつたと話してくれました。(片寄浩紀)